

# 自己点検・評価報告書

令和元年度

学校法人野又学園

函館歯科衛生士専門学校

# 令和元年度 自己点検・評価報告書 目次

I	教育理念・目標	
	1. 教育理念	1
	2. 教育方針	1
	3. 教育目標・人材育成像	1
II	学校運営	
	1. 経営目標	2
	2. 管理運営	2
III	教育活動	
	1. 教育課程の編成及び実施	4
	2. 資格試験	6
	3. 教職員	7
	4. 在学生の状況	9
IV	学修成果	
	1. 就職状況	10
	2. 資格の取得状況	10
V	学生支援	
	1. 在学生への支援	11
	2. 卒業生への支援	12
	3. 中学校・高等学校との連携	13
VI	教育環境	
	1. 施設・設備	14
	2. 実習施設	16
	3. 防災計画	17
VII	学生募集	
	1. 広報・学生募集活動	17
	2. 学生納付金	18
VIII	財務状況	
	1. 予算・収支計画	19
	2. 会計処理・監査	19
	3. 財務情報の公開	19
IX	法令等の遵守	
	1. 各種法令の遵守	20
	2. 個人情報保護	20
	3. 自己評価の実施	20
X	社会貢献・地域貢献	
	1. 社会貢献・地域貢献	21
	2. ボランティア活動	21
	3. 職業教育・職業体験	21

# I 教育理念・目標

## 1. 教育理念

3年間の学生生活の中で、建学の精神の浸透を図り、豊かな人間性を基にした専門職に必要な知識・技術を修得させるとともに、自らの目標に向かい、学習意欲や態度を培うことができる専門的職業人の育成を目指している。

## 2. 教育方針

歯科保健に関わる問題に関し、専門的知識と技術を通して幅広い年齢層の対象者を援助できる能力を修得する。また、業務の多様化・高度化に対応できる専門性や創造性に優れた歯科衛生士を育成することを教育方針として、教育課程の適切な展開はもとより、教育課程にはない学校独自の様々な取組みや授業の工夫により、即戦力の育成を目指した実践教育を行っている。

## 3. 教育目標・人材育成像

- (1) 基本的な医学知識を身に付け、高齢社会に対応できる能力を養う
- (2) 学問的裏づけによる問題解決能力と、それを応用できる創造性を養う
- (3) コミュニケーションスキルや、ホスピタリティマナーを身に付け、豊かな人間性と社会性を育む
- (4) 歯科医療のプロフェッショナルとして、生涯学ぶ努力を怠らない歯科衛生士

### 《現状と課題》

新カリキュラムとなって2年目であった。2年生後期に新設した『課題研究』をようやくスタートすることができ、根拠に基づく思考の育成と、科学的思考による問題解決ができる歯科衛生士の育成をめざす。

函館市内において診療科に歯科を持たない病院での歯科衛生士採用が増えているが、現在では老人保健施設など医療法人の設置高齢者施設においても採用が進み、歯科口腔保健・口腔ケアのニーズが高まっている。

このように歯科衛生業務の多様化により、歯科衛生教育はこれまで以上に多岐にわたり、幅広い知識の修得と多職種連携などの必要性からコミュニケーションスキルと人間力の育成などが求められるようになった。これらのニーズと本校の学生の学力との擦り合わせが必要であることが大きな課題である。

これまで以上に本校の教育力向上に努め地域に求められる人材育成、即戦力の育成に尽力していかなければならない。

### ○ 評価の観点・検証資料

学園訓、事業計画、学則、学生便覧

## Ⅱ 学校運営

### 1. 経営目標

- (1) 学生に資格取得までの明確な目的意識を持たせ、意欲的に日常の学業に臨む姿勢を育む。
- (2) 養成所規定に従い、資格取得目的に沿った教育内容を展開して、国家試験を突破できる力や国家資格取得者に相応しい職業人を育成する。
- (3) 学校内外の研修を通して、教職員の資質向上と教育力・指導力の向上に努める。

### 2. 管理運営

#### (1) 就業規則

就業規則は、『学校法人野又学園就業規則管理規程』の各校就業規則作成基準をもとに作成されており運用しており、学園ネットワーク上でいつでも閲覧、プリントが可能である。また、改定の際には速やかに周知すると共に会議開催時には教職員に重ねて情報共有に努めている。

#### (2) 人事労務管理

教職員の勤務状況等はタイムカードにより管理しており(勤務時間・出欠勤)出張、休暇届、願い等は漏れなく提出されており、適切にファイル保管している。

令和元年度はタイムカード導入により、各自の勤務状況を詳細把握できるようになり労務管理がしやすくなった。特に分掌による業務過多が無いようバランスをみて調整することもできる。また、年次有給休暇の消化については個別に注意喚起している。

#### (3) コンプライアンス

- ① 歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、承認申請事項、報告事項共に遵守されている。令和元年度は実習施設の追加変更承認申請を行った。
- ② 3年課程移行以来9年ぶりに北海道による『養成所等指導調査』が実施された。結果は書面による指導はなく、口頭指導が以下の3項目のみであった。
  - ・臨床実習施設指導者の印鑑が登録外勤務医のものが1件ある
  - ・入学試験の合否判定の選考経緯が分かるよう議事録を作成すること
  - ・学則の条文における法律名称が古く更新されていない

#### (4) 情報公開・情報システム

- ① 学校ホームページや学校パンフレット、入試要項等の印刷物等によって各種の情報公開を行っており、学校基本情報に関してもHPにて毎年更新している。また学校生活におけるトピックス情報は随時アップしており、年間29回に及

んだ。授業や行事、学生の様子から広報活動にいたるまでタイムリーに発信して、特に高校生にとっても分かりやすさを目標にしている。

- ② 文部科学省による、職業実践専門課程の認定校でもあるため、認定要件となっている情報や自己点検評価、学校関係者評価について5月の理事会承認の後にホームページにて公開した。
- ③ 2020年度にスタートする文科省による『修学支援新制度』の対象校となるため、申請要件を満たす情報をすべて公開した
- ④ 学園ネットワークにより、校内の業務管理、業務の効率化の他、学園関連校との情報の共有化も図られている。

#### (5) 運営協議会

**開催日：①令和元年11月14日(木)15:30 ②令和元年12月2日(月)15:30**

学校管理運営上の課題や重要事項の解決策等について協議している。

メンバーは法人から理事長、監事、事務局長が、学校からは校長、教員のなかから委員が参加している。

第1回目は、令和2年度からの中期経営計画の立案について。

第2回目は、特別試験廃止に係る検討事項について

#### (6) 運営委員会

**開催日：令和2年3月16日(月)19:30 於：函館歯科医師会館**

函館歯科医師会と野又学園の法人間で、函館歯科衛生士専門学校運営委員会を開催し、学校運営に関して広く審議・連携が行われている。メンバーは函館歯科医師会から、会長、副会長、専務理事の三役のほか、学校担当理事と事務局である。野又学園からは理事長、校長、教務主任が出席している。

令和元年度は、函館歯科医師会の奨学生制度の変更を主たる協議事項とし、卒業生の就職状況、離職調査の結果、次年度入学生についてなどを報告した。

#### 《現状と課題》

人事では教務主任、事務職員1名がそれぞれ年度途中で産育休暇に入り、年度末にはパート職員が退職した。また次年度4月にも教員1名が1年間の産育休となるため早急に人員確保が必要となった。

人員減は広報活動において影響があり、学生募集活動の縮小とHPトピックスの更新について計画変更した。

女性の職場につき、産育休暇が重なることを想定した業務のマニュアル作りや、校務分掌の工夫など準備しなければならない。

#### ○ 評価の観点・検証資料

就業規則、就業規則管理規程、個人情報管理規程、公益通報者保護規程  
変更承認申請書、5条報告書

### Ⅲ 教育活動

#### 1. 教育課程の編成及び実施

**教務委員会開催 令和元年 6月 4日(火) 19:30 於：函館歯科衛生士専門学校**

**令和元年 12月 10日(水) 19:30 於：函館歯科衛生士専門学校**

#### (1) 教育課程の編成

- ① 法令指定科目の遵守、規程授業時間数(単位数)を確保し、教育理念や教育目標を反映している。また国家試験出題基準の改定に対応すべく教育課程を改正し社会のニーズに即した科目の新設もでき、変更から2年目であった。
- ② 教務委員会では教育課程に関わる事項をはじめ、授業、実習、就職等について幅広く協議し連携を図っている。令和元年度は新カリキュラムでの授業の進捗や臨地臨床実習の改善ポイント等について意見交換も行った。

#### 《現状と課題》

##### 第1回教務委員会の協議事項

- ① OSCE(客観的臨床能力試験)に歯科医師を判定者として追加する件
- ② 臨床実習指導者会議の開催について
- ③ 就職支援における説明会の開催要領

##### 第2回教務委員会の協議事項

- ① 臨床実習の評価表の簡略化について
- ② 次年度の特別試験廃止について

懸案であった臨床実習指導者会議の開催については、協議の結果を踏まえて平日昼で実施できたことが大きな成果であり、次年度にも継続していく。

また、OSCE(客観的臨床能力試験)に歯科医師を判定者として招きたいとの本校の要望を叶えていただいたことに、函館歯科医師会に心より感謝申しあげたい。

#### (2) 教育指導方法

- ① PCや電子黒板によるスライド、画像、動画などの視聴覚教材も多用するほか、グループ学習やアクティブラーニングを取り入れた、『考える授業』の実践を心がけている。また、授業評価を実施しており学生の理解度の把握や授業に関する意見を反映し改善に努めている。
- ② 校内演習では、現役歯科衛生士を招き、学生が直接指導を受けられる授業として位置付けており、1年生 33 コマ、2年生 27 コマ、3年生 14 コマについて9名の臨床歯科衛生士にご指導いただいた。
- ③ 歯科臨床の実際や先進歯科医療、施設歯科衛生士等、現場の第一線の関係者に

よる特別授業を取り入れるなど、実践的な職業教育を行っている。

- ④ 専任教員には授業公開を義務付けており、相互の授業を見学し評価することで学校全体の教育力向上に努めている。

令和元年度は専任教員6名中5名が実施し、1名は機会がなかった。

- ⑤ 教科のスタートにあたり、履修困難が予想される学生に対しリメディアル教育を行っている。スクリーニングテストにて対象となった学生には英語、数学について各5回の補習を行っている、

### 《現状と課題》

本校では『電子黒板』の利用により授業の幅が大いに広がった。加えてマネキン実習室のカメラ・モニターシステムが、書画カメラ以上の効果があり学生からの評価も高い。

専任教員の授業公開は、教員の教育力レベルを揃え、学校全体の教育力向上のために重要な機会である。実施にあたっては他教員の見学と評価が必須であるが、多忙期では参加が困難となるため早期に実施計画を提示できるよう準備しなければならない。

### (3) 教育課程の実施

- ① 講義・演習・校内実習ともに年間計画通りに実施された。

校内演習では学年合同授業を実施しており、上級学年に学び、下級学年に教示するなど双方に効果的な取り組みであると考えており継続実施している。

- ② 校外実習は新カリキュラムになり、1年次90時間・15日間、2年次360時間・60日間、3年次450時間・75日間の合計900時間・150日間で実施した。

函館歯科医師会をはじめ、地域歯科医療関係施設や高齢者施設のご協力のもと法令時間数を確保している。

- ③ 実習中は実習医院・施設を巡回し、指導歯科医師、歯科衛生士、並びに指導担当者と連携を図って一人一人の学生指導にあたっている。

また、臨床実習の評価点が低く合格できなかった学生には、学校にて再指導を行ったうえで再実習・再評価をお願いしている。

### 《現状と課題》

学年合同授業は本校独自の教育法であり、時間割作成上簡単ではないが、各学年ともに好評である。特に下級学年にとっては現在進行形の学びの集大成を眼前で見ることで単純に理解しやすく、モチベーションの向上にもつながっている。現在は演習授業にて実施しているが、今後はアクティブラーニングやグループディスカッションでも展開していきたい。

2年次の臨床実習にて不合格となった学生1名について、学校にて再指導を行った後の春休みに再実習・再評価しようやく合格となった。

客観的臨床能力試験を導入してから、学生の臨床能力の向上はみられるものの、臨床現場における社会一般の常識、年齢相応の注意力と判断力の欠如など、専門学校では指導困難な事例に戸惑うことがあり悩ましい。

#### (4) 成績・評価

- ① 出席簿は教務係が適正管理のもと、出席状況が的確に把握されており、単位認定試験にあたっては受験資格の有無確認を確実にしている。
- ② 学業成績評価の基準はシラバスによって事前に学生に示されており、総合的な観点から公平・客観的に評価している。
- ③ 試験終了後の成績会議は、本試験後、再試験後、特別試験後に開催し、公正に単位認定を行い、進級・卒業判定が行われている。
- ④ 校外実習においては、実習指導者による評価を実施している。  
校外実習期間中、途中評価をFAXしていただき、学生の問題点を早期に抽出し学校と連携して指導する。さらに実習終了後の評価では、実習指導者からの評価・コメントを学生にフィードバックし、次回の実習課題として指導している。

#### 《現状と課題》

国家試験合格は正答率 60%以上である。本校学生の国家試験平均点は年度により異なるが 70%~77%である。定期試験が簡単であれば学生は科目にたいし理解が浅くても『できた』との良い印象が残り、国家試験勉強を始めるうえでマイナスになる。本校では定期試験の難易度を平均点 70 点程度になるよう担当教員に依頼しているが、なかなか揃わず苦慮している。

3 年生 1 名は、最後の教科で単位未修得となったため、次年度の後期の授業に出席し再履修したうえで改めて国家試験に臨むことになった。

## 2. 資格試験

### (1) 歯科衛生士国家試験

年 度	本校合格率 (人数)	全国合格率
R 元	97.1 % (34/35)	94.3 %
H 3 0	100 % (33/33)	96.2 %
H 2 9	97.3 % (37/38)	96.1 %
H 2 8	100 % (25/25)	93.3 %
H 2 7	97.1 % (34/35)	96.0 %

国家試験対策は総合講義(120時間,4単位)として各教科担当教員・講師による講義を行うほか、成績低迷学生には個別に学習指導にあっている。

#### 《現状と課題》

本校は 1 名不合格であった。

教員が手薄なところを非常勤で補い、卒業生の支援も受けてサポートしたが、結果として間に合わなかった。



前年度のアンケートから、個別指導においては教員担当制ではなくアポイント制での指導を試みたが、学生の賛否は分かれた。

歯科衛生士を目指す学生には予備校など学校外にサポートが無く、本校のみで指導していくなかで全学生が満足する『国家試験対策・サポート』は困難な状況になってきたとの実感があり、更なる工夫が必要である。

## (2) 検定・認定試験

1年次の接遇・マナーの授業終了後、3級の検定を受験している。また不合格であった場合は後日に再受験し、合格を目指している。

3年次には歯科医療事務の授業を行い、歯科医療事務管理士認定試験へと繋げているが、実務者の受験が多く難易度が高い問題が多い。

年 度	歯科医療事務管理士		サービス接遇マナー検定	
	本校合格率(再試験)	全国合格率	本校合格率	全国合格率
R 元	100 %	79.5 %	100 %	81.7 %
H 3 0	100 %	79.3 %	94.5 %	65.3 %
H 2 9	94.7 % (100%)	84.2 %	73.5 %	63.2 %
H 2 8	100 %	82.9 %	97.3 %	69.6 %
H 2 7	85.7 % (91.4%)	72.3 %	100 %	91.6 %

### 《現状と課題》

歯科医療事務管理士は4年連続で全員が合格し資格を取得できた。受験者には実務担当者が多いなかで合格率100%は評価できるのではないかと考える。この演習にはマネキン実習機のモニター設備が有効であり、教示方法も分かりやすくなったと好評である。

サービス接遇マナー検定では合格率100%を達成し、『団体優秀賞』を受賞した。それによってクラスの士気も高まるとともに、指導していただいた講師の先生には感謝申しあげたい。

## 3. 教職員

### (1) 教職員の状況

・専任教員 7名      非常勤講師 61名      合計 68名  
 ・専任職員 1名      兼任(務)職員 1名

専任教員は指定基準資格、人数を満たしており臨床歴と教育歴のバランスが取れた構成となっている。

専門科目に関しては函館歯科医師会との連携により適任の非常勤講師を選定し教授いただいている。また、歯科衛生士科目に関しては専任教員の他、北海道歯科衛生士会函館支部の会員や臨床実習指導者の中から選定し講義や実習時の指導

を依頼している。

《現状と課題》

専任教員は教務主任を含め6名ではあるが、年度途中から1名減員になってもなんとか乗り越えることができた。これは指示命令系統よりも教職員の相互援助の賜物であると自負している。

次年度には2名減となるが1名の臨時採用で乗り越えていきたい。

広報活動における専任教員の負担は年々増しており、全員で分担することで何とか計画を遂行してきたが、減員の影響が無いよう準備が必要だった。

(2) 教員研修

令和元年度研修受講実績（専任教員5名分）

1. 全国歯科衛生士教育協議会	
専任教員研修会Ⅱ（5日間・岐阜・朝日大学歯科衛生士専門学校）	2名
2. 北海道歯科衛生士養成機関連絡協議会	
障害をもつ学生への支援（2日間・札幌）	3名
3. 日本歯科衛生士会	
4. 北海道歯科衛生士会	
食・口腔機能改善専門職養成研修会（1日間・室蘭）	2名
口腔機能管理の基本技術（1日間・札幌）	1名
5. 北海道歯科衛生士会 函館支部	
明日から実践できる！歯科衛生士による介護予防教室	3名
歯磨剤の有効性について	3名
6. 歯科医師会（函館・北海道）	
口腔機能低下症の保険診療の流れ	2名
函館臨床研究発表会	2名
7. 関連職種団体	
函館市医療・介護連携多職種研修（介護関係者向け）	3名
函館市医療・介護連携多職種研修（医療・介護連携）	5名
北海道歯科医療管理学会研修会（札幌）	1名
8. その他	
摂食嚥下リハビリテーション学会北海道地区研修会	1名
北海道私立専修学校各種学校連合会研修大会	5名
職業実践専門課程に係る研修会	1名
放送大学科目履修生（身近な統計学）	6名

放送大学科目履修生（日本語アカデミックライティング）	6名
----------------------------	----

#### 《現状と課題》

全衛協の専任教員研修は2名が揃ってⅡを受講できた。順調に受講できるとあと3年で認定を受けることができる。次年度も2名が同時にⅢを受講できるよう調整し、最短で認定資格を取得したいと考えている。

日本歯科衛生教育学会は、福岡開催であったため経費を考慮し参加できなかった。関東・関西までであれば次年度以降参加し、他校の事例に学びたいと考えている。

新カリキュラムに新設した『課題研究』においては、専任教員がグループ指導を担当することを想定しており、その際に最低限必要とされる『統計学』と『簡単な論文の書きかた』について学ぶため、放送大学の受講科目2教科について前期、後期に分けて学んだ。

教員は忙しい中でも時間を割いて学び、試験には全員が1回で合格して4単位を取得したことは学校として大きな成果であり感謝している。

#### 4. 在学生の状況

##### (1) 学生数・定員充足率（40名定員）

※5月1日現在

年度	1年	2年	3年	合計（充足率）
R 元年度	34名	37名	36名	107名（89.1%）
H30年度	38名	39名	34名	111名（92.5%）
H29年度	40名	34名	38名	112名（93.3%）
H28年度	39名	39名	25名	103名（85.8%）
H27年度	42名	26名	35名	103名（85.8%）

##### (2) 年間退学者数・率

年度	1年	2年	3年	合計（退学率）
R 元年度	0名	4名	0名	4名（3.7%）
H30年度	2名	2名	1名	5名（4.5%）
H29年度	1名	0名	0名	1名（0.9%）
H28年度	5名	1名	0名	6名（5.8%）
H27年度	3名	1名	0名	4名（3.9%）

##### (3) 学校行事

- 4月 入学式、新入生歓迎会
- 5月 春のレクリエーション
- 6月 宿泊交流会

- 10月 遠足
- 2月 臨床実習決意式
- 3月 歓送会、研修旅行、卒業式

《現状と課題》

入学生は過去5年で最低の34名であり、渡島桧山からの札幌流出が目立ち残念な結果となったが、クラスの雰囲気やまとまりが良く、評価されるクラスとなった。

退学者はすべて2年生であり、退学理由は単位未修得1名、家庭内の問題2名、進路変更1名の計4名である。単位未修得の1名に対しては様々な方法で学習支援を行ったが、それ以外では学校としてサポートできる事例はなかったことが残念であった。

○ 評価の観点・検証資料

学生便覧、シラバス、年間行事予定表、出席簿、休・退学生台帳、授業評価表  
 函館歯科衛生士専門学校教務委員会規程、臨地・臨床実習計画表、実習評価表  
 成績会議資料、模擬試験計画表、就業規則（研修）函館私学研究紀

## IV 学修成果

### 1. 就職状況（卒業生35名）

年度	卒業生数	函館市内	渡島・桧山	道内	道外	合計	求人数
R 元年度	35名	16名	5名	3名	8名	32名	589人
H30年度	33名	21名	3名	5名	4名	33名	492人
H29年度	38名	13名	6名	12名	6名	37名	480人
H28年度	25名	17名	3名	2名	3名	25名	582人
H27年度	35名	20名	5名	2名	6名	33名	434人

### 2. 資格の取得状況

#### III 教育活動

#### 2. 資格試験に記載

《現状と課題》

卒業生35名のうち、就職を希望しない2名、国家試験不合格が1名おり、正味32名が就職対象となる。函館歯科医師会管内の就職率は65.6%とおおよそ過去5年の平均であった。その他、道内では札幌と北広島へ。道外は仙台、東京、神奈川、大阪と久しぶりに関西への就職もあった。

就職説明会は2回計画したが、参加医院が1回目に集中したためブース形式ではなく、全てプレゼン形式とした。医院側はプレゼンとブースでは希望が分

かれるところではあるが、学生には大変好評であった。

次年度の開催方法については、また教務委員会にて協議を続け、医院側と学生の双方にとって有意義な方法を模索する。

○ 評価の観点・検証資料

求人一覧表、就職一覧表、就職支援対策のフローチャート

## V 学生支援

### 1. 在学生への支援

#### (1) 進路・就職

##### ① 就職支援ガイダンスの実施（3年次5回）

- ・労働基準法について
- ・求人票の見方・確認ポイント
- ・求人票の掲示から採用までの流れ
- ・履歴書の書き方
- ・税金に関する講演（外部講師による）

##### ② 就職希望調査は、2年次と3年次に行い、担任が調査結果を用いて個人面談で詳細を聞き取り、それぞれの希望に合わせた指導をしている。

#### (2) 学生相談

全学年ともに春期・秋期に担任との個人面談を実施し、問題の早期発見・対応に努めている。特に入学間もない地方からの学生には個別に住居を訪問し、生活環境面での問題や不安に対しサポートできるよう心がけている。

#### (3) 経済的支援

##### ① 入学金の免除（令和元年度入学生）

種 類	A特待生 (20万円)	B特待生 (10万円)	特別推薦 (20万円)	キャリアデザイン (5万円)	合 計
対象人数	3 名	4 名	0 名	2 名	12 名 (110万円)

##### ② 日本学生支援機構の奨学金受給者

学年	1年	2年	3年	合 計
対象人数	20 / 34名	21 / 37名	14 / 36名	55 / 107名 (51.4%)

##### ③ 函館歯科医師会奨学金制度では、月額2万円（3年間で72万円）の奨学金(返済義務なし)を3年間に渡って支給しており、学内で6名が対象となっている。

#### 《現状と課題》

就職に関するガイダンスでは、文科省や厚労省から資料を選定して使用しているが、年々内容が豊富になっている。労働者として理解しておくべき基礎知識は最低限扱っていかねばならないと考えている。

日本学生支援機構の奨学金受給者は、令和元年度では 51.4%であり、依然として半数を超えている。次年度にスタートする修学支援新制度においては対象となる学生が多くなることが予測されるため、学校として制度の理解を深め情報の共有、事務作業の効率化に努めなければならない。

#### (4) 健康管理

- ① 法令に従い健康診断、身体検査を4～5月に実施している。
- ② B型肝炎の感染対策として、1年次にHBs抗原抗体検査を行い、ワクチン接種によりHBs抗体を確認するとともに、はしか・ムンプス等4種の抗体検査も行ってから臨床実習に出している。
- ③ 医務室ベッドの使用は緊急時のみとし、状態を見極め早退の判断をする
- ④ 廊下や教室内に消毒剤を常備しており、教室内での感染予防に努めているが、特に2月には道内で新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、できる限りの対策を施した。

#### (5) 保護者との連携

- ① 保護者への連絡は、内容によって電話、文書を使い分けているが、特に成績不振学生や国家試験に向けては、家庭での学習支援の重要性から直接ご協力をお願いし、相互でのサポートを心がけている。
- ② 体調不良により早退する場合には、担任から保護者に病状や状況などについて連絡してから帰宅させるようにしている。
- ③ 3年次の患者誘致実習においては、多くの学生は保護者を誘致しており、協力を得られ目標が達成されることから、円満な協力体制ができている。

#### 《現状と課題》

例年3月には2年生の研修旅行を実施していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念から2月には延期を決定し保護者に通知した。

また、卒業式についても縮小し学校内にて卒業生と教職員のみで挙行することとなり、大変残念だったがその時点でできる限り精一杯の開催であった。

新型コロナウイルスの感染防止対策として様々な取り組みを行ったが、医療職種として正しい知識、判断ができるよう全体で学ぶ機会になった。

## 2. 卒業生への支援

### (1) 卒業研修会開催

第1回 令和元年6月30日(日) 10:00~15:00 参加42名

第2回 令和元年9月1日(日) 9:30~12:30 参加30名

(2) 復職支援

中途採用の求人票を管理し、卒業生から求職の問い合わせがあった場合に開示し、相談や再就職を支援している。また、北海道歯科衛生士会函館支部との連携により、会員には一斉メールにて随時求人情報を発信しており、年間10回程度になるが期待するほどの反応はなく、ハローワークや就職雑誌・サイト等を利用しているのではないかと考えられる。

(3) 学校教材の貸出し

学校図書や歯科保健の指導媒体・器材等の貸出しは要望があるごとに随時行っており、勤務先での診療業務に対して協力している。特に図書室の本が充実しており、卒業生にも好評である。

《現状と課題》

卒後研修会は6年目となった。令和元年度の第1回目は初めてオムニバス形式を導入し、4講座のなかから希望する2講座を事前を選んで申込みようにした。第2回目は東京から著名な講師を招き、最新の歯周疾患事情についての講話と演習を合わせて実施した。両方ともに好評であったが、特にオムニバス形式のリクエストが多数あったので、次年度にも取入れることにした。

毎年同時期に開催することで卒後研修が広く認識され、卒業生が多く参加して個々の『生涯学べ』の実現のために支援をしていきたい。

3. 中学校・高等学校との連携

(1) 中学校

・次世代人材職業体験推進事業

月日	学校名	人数	時間
7/12	今金中学校	5人	13:00~15:00 (2H)
8/22	上磯中学校	9人	10:00~12:00 (2H)
8/23	松前中学校	6人	10:00~12:00 (2H)
9/5	八雲中学校	20人	10:30~11:30 (1H)
10/17	函館市立本通中学校	10人	9:30~14:00 (4H)
10/25	函館市立桔梗中学校	5人	9:00~12:00 (3H)
11/6	函館市立戸倉中学校	10人	9:30~13:30 (3H)
合計	7校(昨年度同数)	65人(+13)	17時間

(2) 高等学校

① 学園姉妹校である函館大学付属柏稜高等学校と連携し、キャリアデザインプロ

グラムに講師を派遣したり、職業体験として生徒の受け入れをしている。  
また、卒業生による母校での職業説明会や体験学習を実施することで、生徒には身近に職業の特色を理解してもらう良い機会になっている。

- ② 各校の職業説明会への参加のほか、上ノ国高校では放課後を利用した現地体験学習も実施するなど職業教育に取り組んでいる。

#### 《現状と課題》

中学生の次世代人材職業体験は、申込み学校数は変わらないものの、参加生徒は増加しており満足度も高い。本校にとっても学生獲得の絶好のチャンスであり、高校進学後には本校との繋がりがもてるような取組みを考えていく。

また、以前実施していた本校学生によるライフステージ別集団指導の授業を再び中学校で実施したいと考えており、インフルエンザ流行期による中止の経験から時期を見直しシラバス再編へと取り組む。

#### ○ 評価の観点・検証資料

就職希望調査、個人面談票、求人票一覧、就職支援のフローチャート  
入学試験要項、函館歯科医師会奨学金支給規程実施要綱、入学試験判定資料  
職業説明会実施記録、口腔保健教育授業実施記録、卒後研修会開催記録

## VI 教育環境

### 1. 施設・設備

#### (1) 普通教室

教室内には電子黒板、スクリーンが設置されており、PCやタブレットでの授業も容易にできる。また学生用の鍵付ロッカーを備え付けており各自で貴重品の管理や教材の保管に使用している。また、教室後ろに流し台も備わっており、教室内の演習時や食後の歯磨きなどに使用している。

普通教室は全室冷房を完備しており、夏場でも快適に授業を受けられる。

#### (2) 実習教室

- ① 基礎実習室では診療台を14台配置し、ロールプレイを行う際に、教員の巡視・指導の導線が良い。また、洗い場を中央に広く配置しており、準備・後始末には安全なスペースで目が行き届く。
- ② 実験室では主に診療補助の授業に使用し、必要器材の準備から後始末までを学生ができるように備品が整理・収納されている。机は8人掛けの広さがあり、実習以外にも多目的で使用できる。
- ③ マネキン実習室には、歯科診療台の仕様を机にしたものが40台設置されている。ライトやシリンジ、切削エンジン等も備わり、『人』を対象とする演習の前に重要な基礎実習で使用しているが。カメラと机上モニターがあるこ



とからそれ以外の授業においても効果的であり多目的に使用が可能である。

- ④ X線教室は、撮影室3室と暗室が2室あり、壁、ドア、ガラスに放射線防護装置が施されており、安全に授業ができる設備となっているほか、デジタル撮影装置も備わっている。
- ⑤ PC実習室はパソコン機40台を設置しており、情報処理・統計の授業のほか、口腔保健管理での患者データの入力・管理や、課題研究のプレゼン用スライド作成など広く活用している。函館看護専門学校との共用である。

### (3) その他

- ① 標本室は学習室の機能を兼ねており、器材や模型が展示されているほか、自己学習用の机・いすも備わっており、学生は自由に使用できるようになっている。
- ② 医務室には、2床のベッド及び寝具が備えられ、一時的な休養に使用する。
- ③ 1Fラウンジでは、シダックスによる食堂運営がされており、学生、教職員が利用するほか、休憩時間や放課後の使用、学生指導や打ち合わせと多目的に使用している。  
2FラウンジⅡには部屋の窓側半周に渡ってカウンター席があり、ソファ席やテーブル席もあり、休憩や食事のほかにも個人学習やグループ学習、アクティブラーニングなど多目的に使用できる。
- ④ お手洗いは様式化が進み、1～3階まで配置されている。また、2階には多目的トイレがあり車いすでの利用が可能になっている。

### 《現状と課題》

各実習教室の放課後使用状況（前年比）

	マネキン室	基礎実習室	実験室	PC実習室	合計
前期（4～8月）	10(-175)	74(-82)	54(-119)	12(-86)	150(-462)
後期（9～3月）	96(+28)	12(+4)	4(-15)	19(-24)	131(+7)
合計	106(-147)	86(-78)	58(-134)	31(-110)	281(-469)

放課後の自主的取組みのためにマネキン実習室、基礎実習室、実験室、PC実習室を開放し自由に使用できるようにしているが、前年度が予想以上に活用されていたことで比較してみたところ、上記のような結果となり驚いた。

使用目的の多くは2年生前期に実施するOSCE(客観的臨床能力試験)のための練習であり、特にマネキン室、基礎実習室、実験室の使用が該当する。

使用頻度の高かった前年度はOSCEの結果も良く、不合格者が少なかったのに対し、この年度は不合格者が過去に例のないほど多く、後期にスタートする臨床実習に間に合わなかった学生が数名いた。

学生には自主的な取組みを促し、1年次から習慣化させるような取組みをしなければならぬと実感した。

## 2. 実習施設

### (1) 歯科医院・歯科関連施設

・実習登録施設	歯科医院	88件	(函館、渡島檜山、伊達、えりも、弘前、 鱒ヶ沢、五所川原、八戸、北上)
	総合病院	5件	
	センター	1件	
	病院	6件	合計 100件

#### 《現状と課題》

登録歯科医院の数は十分ではあるが、年度によって条件が整わないこともあり、2人1組を配当するのは簡単ではない。実習に要する時数は変わらないが、1クルの時数を増やすことで件数を少なくするなど工夫を重ねている現状であったが、運営委員会にて協議事項としたことで、次年度は登録歯科医院の拡大について函館歯科医師会にご協力いただけることになった。

また、新たに病棟実習が可能となるよう歯科を持たない病院を登録できたことは大きな成果である。

地方出身学生には、地元でも実習ができるよう年度ごとに学生の要望を聞きながら実習先歯科医院を登録申請している。

### (2) 幼稚園・保育園

#### ・登録施設 13園

園児にたいする集団指導の授業を行っていたが、カリキュラム改正により時間的に実施できない状況となっている。

### (3) 高齢者施設

#### ・登録施設 14施設・事業所

3年次に2週間の臨地実習を実施している。特に高齢者の口腔ケアに関われるよう依頼しており、昼食後の口腔ケアの際に本校教員が巡回指導している。また、デイケア利用者にたいし授業の一環で介護予防教室を開催している。

#### 《現状と課題》

歯科衛生士の教育コアカリキュラムが幅広くなったことで、校外実習の時間を削減しなければならない状況となり、現在は小学校1校、高齢者施設1件のみとなった。しかし、特に高齢者施設では介護予防や感染症対策として口腔ケアの重要性も浸透しており、歯科衛生士の採用にもつながっていることから、他の施設や地方の施設への展開を視野にいれて実現を目指す。

### 3. 防災計画

#### ・防災訓練実施日 令和元年6月26日(水) 12:15～

##### 《現状と課題》

災害時の対応マニュアルを作成し、函館看護専門学校とともに訓練することができた。時期的に3年生が臨床実習中につき1クラス減で実施しているが、全学年が揃って訓練できないものかとも考えたが、2校で実施するため時期調整は困難である。

#### ○ 評価の観点・検証資料

歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領  
臨床実習施設の概況書

## VII 学生募集

### 1. 広報・学生募集活動

#### (1) 高等学校内説明会・ガイダンス

##### ・令和元年度実績 説明会11校、ガイダンス11校

函館・渡島・桧山管内の高等学校にて職業説明会に参加している。

高校の生徒減少により学年合同開催となったり、生徒数が少ない学校では開催そのものを控えるなど、参加できる機会が減っている。

#### (2) 高等学校訪問

##### ・令和元年度実績 年間78校、144回(昨年度:67校、131回)

専任教員4名で地域担当を固定して分担している。

本校は特に函館市内からの入学生が多く、渡島・桧山管内と合わせて年間3回訪問する。時期が合えば在校生も帯同させたいところだが、調整は困難で実現可能性は低い。

青森県からの生徒獲得のため尽力しているが、高校の統廃合のスピードが速いうえに、地元志向を崩せないでいる。

#### (3) 進学相談会

##### ・令和元年度実績 年間27回、152人(昨年度:27回、133人)

相談会は生徒と直接面談できる貴重な機会ではあるが、少子化の影響で集客そのものが大幅に減少しており、業者間の競争も激しい。

近年は、高等学校内での相談会・ガイダンスの開催が増加しており多くの生徒と接触できることから、積極的に参加している。コスト面でも満足度が高く、1カ所に生徒を集める時代から、こちらから出向広報活動へと変化している。

(4) 体験入学

・令和元年度実績 年間5回、参加106人（昨年度：4回、94人）

前年度に2年生の参加者が多く入試に期待していたが、令和2年度入学生は予想通り定員となった。

本校の体験入学参加者は少ないが、確度は高くほとんどが第1希望であるため予測もしやすい。札幌圏への流出を阻止できるような方策はないものか、常に課題となっている。

(5) はこだてキッズタウン

・令和元年9月30日（日）10:00~16:00 参加91人（昨年度：98人）

子ども向け地域職業体験イベントは、小学校3、4年生を対象としており、来場者は500人を越えている。本校は北海道歯科衛生士会函館支部に協力いただき参加しているが、この年度は初めて学生の手伝いを募集してみたところ、希望者が数名手を挙げてくれたため一緒に参加した。

《現状と課題》

本校では体験入学参加者の入学率は高く、令和2年度入学生40名のうち体験入学参加は88%と非常に高い。目標は高校2年次から何度も足を運んでもらえるような魅力ある内容を企画し、リピーターとなってもらうことである。

いかに学校まで足を運んでもらえるかを常に教職員全体で考えている。

はこだてキッズタウンで歯科衛生士体験ブースは人気であり、親子で来場していることは職業を認知してもらう意味からも本校にとって重要である。

休日のイベントではあるが今後も継続参加していきたい。

2. 学生納付金

(1) 学校納付金

入学金	200,000円
授業料	550,000円（年間）
実験実習費	190,000円（年間）

(2) 業者への納入金(R元年度)

	教科書	実習衣	実習器材	研修旅行	国家試験旅費
1年	69,100円	28,000円	58,000円		
2年	28,600円			72,000円	
3年	42,800円				24,600円

教本、白衣等、器材、研修旅行費用に関しては入学試験要項に記載があり、入学時または進級時に業者から直接購入している。進級時の購入に関しては、事

前に保護者宛文書によって金額を提示している。

#### 《現状と課題》

次年度にスタートする就学支援新制度にあたっては、申請済みまたは申請予定者について、採用区分の確定まで学費納入を猶予することにした。それに伴って入試合格者への通知文書等を何通りも作成する必要性があり、当初は事務作業が混乱した。また、制度そのものの認知度が低く高校側や保護者への説明も必要であった。

これらを経験したことで、次年度はスムーズに進められるよう準備する。

#### ○ 評価の観点・検証資料

平成30年度入試広報報告、入学試験要項（授業料、実験実習費）諸費用内訳

## VIII 財務状況

### 1. 予算・収支計画

令和元年度の予算編成では、近隣の土地購入に係る支出によって超過し借入となった。人件費比率も上がってきており、やはり学生数の確保が最重要課題である。

新設したマネキン実習室、PC実習室の機器備品など耐用年数に従って更新する必要性を念頭に置き早期に備えていかなければならない。

### 2. 会計処理・監査

法人の経理と養成施設(学校)の経理とが統合されており、会計帳簿、決算書類等、収支の状況を明らかにする書類は学校に完備されている。

学校会計監査は、適正に実施されており指摘事項はなかった。

#### 《現状と課題》

年度末の新型コロナウイルス感染拡大について、今後の見通しは依然と厳しく、現在の感染防止対策は継続しなければならないことから、これまで以上に経費を要するものとして収支計画を立てる必要がある。特に相互実習を行う学校として十分に注意を払い安全に授業を遂行しなければならないと考えている。

### 3. 財務情報の公開

財務情報に関しては、ホームページにて公開しており、『財務情報閲覧資料』としてファイル管理・保管もされている。請求のあった場合には対応できる体制は整っている。本校は職業実践専門課程の認定校であり、財務の情報公開は義務である。

#### 《現状と課題》

現在『財務情報』としては、学園ホームページのほか、学校ホームページでも同様公

開している。就学支援新制度対象校の申請において義務となっており、毎年更新されることになる。

○ 評価の観点・検証資料

公認会計士監査資料、予算編成会議資料、財務情報閲覧資料

## Ⅸ 法令等の遵守

### 1. 各種法令の遵守

歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、定期報告、申請、届出について必要な事項を掌握し適切に対応しており、法令遵守に努めている。また、職業実践専門課程の認定要件である情報公開についても期日までに必ず更新している。

さらに次年度スタートの就学支援新制度においても対象校として様々な学校情報を公開する義務があり、合わせて更新していく。

### 2. 個人情報の保護

野又学園個人情報管理規程により、学校が保有する個人情報について、管理者、管理方法、管理場所が明確となっており、非常勤講師・学生に対しても『個人情報保護に関する同意書』を提出してもらっている。

### 3. 自己評価の実施

年度末に教員全員による自己点検・自己評価を実施し、学校の実態を把握し、問題点を見つけ、早期に改善するよう努めている。また、結果については、学校関係者評価委員会・野又学園教育向上委員会に提出し、理事会の承認の後にホームページにて公開、更新している。

#### 《現状と課題》

学生の学校内や臨床実習中における SNS による規定違反があった。学則に謳ってはいるものの度々注意喚起しなければならない。ガイダンス時にはDVDを使用して注意を促しているが、学年が上がっても同様に繰り返しが必要である。

令和元年度の自己点検・自己評価報告が遅れたため、ホームページ更新ができずにいたことは反省点である。

次年度は通常通り5月の理事会に間に合うよう作成する。

○ 評価の観点・検証資料

個人情報管理規程、個人情報保護に関する同意書、学校評価委員会規程

## X 社会貢献・地域貢献

### 1. 社会貢献・地域貢献

- (1) 関連団体や学校関係者、個人に対し、学校の保有する歯科器材や保健指導用媒体等を提供・貸出している。
- (2) 研修会・講演会等の講師依頼があった場合には、可能な限り教員の派遣を承諾し、地域の口腔保健の向上に寄与している。
- (3) 学校祭において歯科医療関係団体と連携し、公衆衛生活動と口腔保健の意識向上に寄与している。

#### 《現状と課題》

学校祭では、函館歯科医師会から 8 名、北海道歯科衛生士会函館支部から 15 名、体験・販売担当の 7 名と、多くの方々のご協力を得て無事に終了した。来場者は 356 名と多くの方にご来場いただいた。リピーターが多く毎年楽しみにしているとお声を聞きモチベーションになっている。

次年度も地域の方々に喜んでいただけるイベントになるよう、関係団体と協力して計画していく。

### 2. ボランティア活動

学生には、休暇中のボランティア活動と地域・近隣の施設でのボランティアを奨励している。

1 年次は夏季休暇中、2 年次は高齢者施設等で実施しており、学校ではボランティア募集の案内を掲示して活動を支援している。

#### 《現状と課題》

令和元年度は、学校内のボランティア募集もはじめた。オープンキャンパスや児童館合同の学校訪問等に活躍してくれた。

### 3. 職業教育・職業体験

#### V 学生支援

##### 3. 中学校・高等学校との連携に記載

- 野又学園施設貸出規程、学生ボランティア実績、職業体験受け入れ実績